

(3) 全体計画

| 課題 | 技術開発、調査等の概要 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 到達目標 |
|---------------|---|----|----|----|----|----|-------------------------------|
| 親貝養成技術開発 | ・ヤコウガイの産卵の盛期は8～9月である。冬期の加温飼育等によりこれを5～6月に産卵させる事により、稚貝の成長および生残率を高める。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 5月の採卵 |
| 種苗生産技術開発 | ・ヤコウガイの種苗生産技術はほぼ開発されているが、生産量はまだ不安定である。種苗生産のマニュアルを作成し、誰がやってもできる種苗生産を目指す。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 毎年殻高7mm種苗10万個の生産 |
| 中間育成技術開発 | ・中間育成中の歩留まり向上と成長促進、省力化のため飼育方法を改善する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 翌年7～8月までに殻高25mmまで成長させる。生残率80% |
| 冬期の大量斃死防止技術開発 | ・11年度冬期には、中間育成中の貝の3～4割が斃死した。これを防止する手法を開発する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 冬期の大量斃死の回避 |
| 放流技術 | ・漁獲サイズまで確実に残存する標識方法を検討する。 | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | 放流効果の算定 |
| 漁獲物調査 | ・八重山海域に水揚げされるヤコウガイについて、標識の有無、殻高及び重量等を調査する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 90%以上の調査率 |